



「マウスコンピューター」のMCJ<6670>、MBOで株式非公開化してボルトオンM&Aを推進



パソコン製造販売のMCJは、株式非公開化により短期的な株価動向に左右されない経営体制を構築し、海外展開の強化や新規サービス分野の拡充、既存事業とのシナジー創出を重視するボルトオンM&Aを活用した事業拡大などを進め、中長期的な企業価値向上を目指す。国内パソコン（PC）市場の成熟化や競争激化、事業領域の拡大に伴う迅速な意思決定の必要性が高まっていた。MBO成立後に東証スタンダード市場の上場は廃止する。

大手投資ファンド 米ベインキャピタル系のビーシーピーイー メタ ケイマン エルピーがMBO（経営陣による買収）の一環としてTOB（株式公開買い付け）を実施する。創業者で34.36%の株式を保有する筆頭株主の高島勇二MCJ会長は全株をTOBに応募するが、成立後も経営に関与する予定。

買付価格は1株につき2200円で、公表前営業日終値1589円に対して38.45%のプレミアムを加えた。買付代金は約2079億円。

買付予定数は9450万7941株で、下限は6278万5300株。応募が下限に満たない場合は買い付けを行わない。買付期間は2026年2月6日から3月24日まで。決済の開始日は3月31日。公開買付代理人はSMB C日興証券。

MCJはTOBに賛同を表明し、株主に応募を推奨している。

同社は1993年に創業し、2004年に東証マザーズへ上場。2015年に東証2部へ市場変更し、2022年の市場再編に伴いスタンダード市場へ移行した。PC製造販売の「マウスコンピューター」などを中核に、周辺機器販売や欧州モニター事業、複合カフェやフィットネス事業なども展開している。